



美しい自然環境あふれる文化都市いちかわ 市内を丸ごとミュージアムに

街かどミュージアム

豊かな自然に恵まれ、古くから文化と芸術の土壌が育まれてきたまち、いちかわ。人々の心を豊かに育み、地域を彩る文化活動のネットワークをつくらうと「街かどミュージアム」構想がすすめられています。

「街かどミュージアム都市」づくりは、寄贈された民家などを文化活動の拠点とし、まち全体を美術館や博物館にしようという計画です。貴重な文化財産を収集・保存・展示するだけでなく、継承していくために、文化資源を生かしたイベントなども地域の人々とともに企画・開催しています。

指定管理者制度が始まりました

2004年から導入された指定管理者制度により、公の施設は地方公共団体の指定を受けた一般の企業やNPOなどを含む民間事業者が管理できるようになりました。大切な文化施設の管理・運営を任せられた事業者が、質の高い施設運営を進めることが期待されます。

明治・大正期の近代建築が今また蘇る 木内ギャラリー

2004年9月26日オープン

「市川市木内ギャラリー」は、建てられてから90年の月日経った旧木内別邸の洋館の部材を、最大限に生かしながら復元・再築し、周辺を整備して公開したものです。

天然のスレートをふいた屋根が描く、流れるような勾配。高さ約12メートルの塔屋がこもれ日をうけて光ります。外壁にあしらわれた妻飾りや格子組みの重厚で堂々としたたたずまいや、神社仏閣に見られるような玄関の組物に圧倒されてしまいます。

明治・大正期にヨーロッパから持ち込んだ



① 寄せ木張りの床、緑色のタイルを使った暖炉など、旧書斎は見どころがたくさん。② 昭和初期に撮影された旧書斎の様子。③ 損傷の激しかった塔屋も再築補修した。④ ヨーロッパの伝統的な建物に見られるスレートという石材を使った屋根。

近代建築をじっくり感じ取ることのできる場所で、企画展示やミニコンサートなどを楽しむことができます。



故・水木洋子さんの文化基金で 「シナリオ賞」を創設

NHK大河ドラマ「龍馬がゆく」、映画「裸の大將」など数々の名作を残した脚本家、故・水木洋子さんから、市川市に寄贈された所有財産を資金として、2004年3月に「市川市水木洋子文化基金」を設立しました。その基金を活用し、水木洋子さんの業績を称え、後世に引き継ぐため「市川市水木洋子シナリオ賞」を創設しました。この賞は後進のシナリオ作家の育成を目的としており、シナリオ作家協会と映画文化協会が主催する第14回新人シナリオコンクールの特設賞として毎年1人に贈られます。賞金は100万円。2005年3月末には第1回の受賞者が決まります。

広い庭に四季折々の花が香る 芳澤ガーデンギャラリー

2004年9月26日オープン

芝生と木々の緑に包まれた「市川市芳澤ガーデンギャラリー」は、土地の寄贈者・芳澤月恵さんの「百樹園と名づけた庭を活かしてほしい」という意向をくみ、庭の姿を残しながら、ギャラリーとして整備されました。

ギャラリー1・2は、天井の高さが4.5メートル、広さは200平方メートル。移動式の壁で多様な展示空間が作りだせます。ここでは絵画などの美術品の展示が企画されているほか、市民にも貸し出しています。そのほか、水屋を備えたギャラリー3（75平方メートル）には和室もあり、お茶会や句会、展示室としても利用できるなど、ゆったりとした空間での幅広い芸術文化活動を行っていきます。



⑤ 「百樹園」の名前通り、多種多様な植物を見ることができる庭。⑥ 庭を一望できるロビー。⑦ ギャラリー1・2。

貴重な下図やゆかりの品も公開 （仮称）東山魁夷展示館

2005年秋オープン予定

1946年から市川市で制作活動を続けた日本画家の巨匠、故・東山魁夷画伯の展示館の建設が、2004年10月、着工されました。

「（仮称）東山魁夷展示館」では、市の所蔵する絵画や版画のほか、一般の目に触れる機会がなかった下図やゆかりの品なども東山家から寄贈され、公開することになりました。自然や人間、芸術に対する心を育む展示館として、中山・若宮地区の街かどミュージアムの拠点ともなります。

⑧ 外観模型。ドイツの民家を模したつくり。



また、将来的には画伯が創作活動を行った自宅・アトリエを資料館とし、展示館とあわせて「東山魁夷記念館」として公開していく予定です。